

令和7年度
組合運営方針

泉北環境整備施設組合

管理者 辻 宏康

令和7年度 組合運営方針

令和7年泉北環境整備施設組合議会第1回定例会開催にあたり、組合管理者として組合運営の基本方針と主要施策の大綱を申し述べ、議員各位並びに組合市の市民皆様のご理解とご協力をお願いする次第でございます。

本年は乙巳（きのと・み）年で、変化や挑戦、新しい可能性が広がる年と言われており、前回の1965年（昭和40年）は、57か月間続いた「いざなぎ景気」が始まった年で、その後、経済発展が加速しました。このように、乙巳年は、多くの人にとって成長と結実の時期となる可能性が高い年まわりだそうでございます。本組合におきましても、これまでの事業に加え、より広い分野で環境改善の役割を担う組織であることを認識しながら、業務に邁進してまいります。

さて、「2025大阪・関西万博」が本年4月13日から184日間にわたり、大阪湾の人工島・夢洲（ゆめしま）で開催される予定でございます。「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針」が策定され、

「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマとされております。その運営においても SDGs 達成を実現するため、環境や社会への影響を適切に管理し、持続可能な万博の運営を目指しているもので、各国から多くの方々が訪れることと期待されております。

こうした中、本組合では、以下の事業を主要な事業と位置づけ、取り組んでまいります。

まず、し尿処理事業ですが、令和5年度に搬入されたし尿及び浄化槽汚泥量は、前年度より約356kl減の約3万5,484klとなりました。今後は、老朽化した施設を維持しながら、令和9年度中に供用する「汚泥再生処理センター」へスムーズに移行できるよう取り組んでまいります。新たに整備する汚泥再生処理センターでは、し尿及び浄化槽汚泥と学校給食から出る食品残渣を処理するとともに、脱水した汚泥を泉北クリーンセンターの助燃材として再利用いたします。また、脱水後の処理水から、枯渇資源のリンを回収するマテリアルリサイクル技術を採用することで、循環型社会の形成に取り組めます。あわせて、大阪府の流域下水道で終末処理を共同化することで、維持管理費の削減を実現させ持続的な汚水処理を可能とするものです。

次に、ごみ処理事業ですが、一般廃棄物処理施設整備事業において、立地検討委員会の答申を受け、パブリックコメントを実施し、現在その結果について公表しているところであります。答申では、ENEOS大阪事業所跡地が次期一般廃棄物処理施設の用地としてより望ましいとされましたが、引き続き、課題の整理に取り組むとともに、立地等の決定にあたっては、議会のご意見等を総合的に勘案し、その立地や施設規模等をお示ししてまいります。

資源化センターにおいては、市民皆様のご協力により、令和5年度は、約4,700トンの資源化を図ることができました。稼働以来、着実に再資源化を図っており、令和6年4月から、サントリーグループと協働し、家庭から収集する使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生する「ボトル to ボトル」の取り組みをスタートさせ、更なる循環型社会形成を推進するものです。また、ペットボトル資源を繰り返し利用できることから、新たに石油由来原料からペットボトルを製造する工程と比較すると、二酸化炭素の排出量を約60%削減することができます。

可燃ごみにおいては、市民皆様のご協力により、年々焼却ごみ量は

減少しており、令和5年度には、前年度より約3,020トン削減の約7万7,300トンとなりました。ピークであった平成9年度の約12万5,000トンと比較すると、38%もの大幅な削減です。

ごみ処理施設につきましては、令和4年度、令和5年度で長寿命化のための基幹的設備改良工事を実施したことにより、主要設備の延命化を実施することができました。今後も、毎年実施する定期整備工事等において、適正な維持管理に努めてまいります。

また、一般廃棄物の直接搬入につきましては、予約制を導入したことに合わせて毎月1回、土曜日の搬入を実施しております。引き続き、施設内の混雑解消、安全確保に努めてまいります。

次に、ごみ発電事業ですが、環境価値の高い再生可能エネルギーとして、令和5年度には、約3億6,200万円の売電収入を得られました。また、貴重な地域資源である泉北クリーンセンターの廃棄物発電余剰電力とその環境価値について、電力の地産地消を通じて、地域の脱炭素化を図ることを目的とした地域新電力事業を推進し、今年度の自治体新電力会社の設立に向け、取り組んでまいります。

次に、啓発事業ですが、「環境シンポジウム」や「泉北環境クリー

ンフェスティバル」、ごみ拾いとスポーツの要素を取り入れた「スポGOMI 大会」などの各種イベントや、リユース事業では子供服無料提供会「おゆずりバザール」、リユース品無料抽選会を引き続き実施するとともに、組合広報紙「泉北クリーンセンターだより」、組合ホームページ等で、市民の皆様へ周知・啓発を進めてまいります。

今後も組合市と連携し、さらなるごみの減量化・4R「リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル」の推進を図りながら、資源循環型社会の形成に向けて積極的に取り組んでまいります。

以上、令和7年度の主要な事業について述べさせていただきましたが、本組合の主たる財源は、組合市からの分担金であります。

これまで、本組合では、し尿処理・ごみ処理事業を展開するに当たり、各施設の運転管理業務のアウトソーシングなど、人件費の削減に取り組むほか、組合市の経費の負担軽減に寄与すべく、より効率的な組合運営に取り組んできたところであります。

今後は、し尿処理施設、ごみ処理施設ともに施設の更新事業を控えており、経費負担の増加が見込まれるところであります。これに加え、昨今の物価及び人件費の高騰が続いている中、これまで以上のコス

ト削減を図るとともに、あらゆる事務事業の見直しを行い、引き続き組合市と密接に連携を図りながら、持続可能な組合運営に取り組んでまいります。

本年度の当初予算（案）につきましては、一般会計予算の歳入歳出総額が36億1,309万3千円となるものですが、国の循環型社会等の交付金制度を最大限活用するなど財源確保に努め、組合市にご負担いただく分担金につきましては、22億3,798万6千円となるものでございます。

結びになりますが、本組合を取り巻く様々な課題に対しまして、組合市の財政状況をしっかり踏まえ、「最少の経費で最大の効果を」上げるべく、事業の効果、優先順位を見極め、真に必要な施策を進めてまいります。また、全域31万市民の環境を守るとともに、次世代のためにも、将来にわたって持続可能な社会を形成していく組織としての重要な使命と責任を認識しつつ、市民皆様からのご期待にお応えするために、引き続き、正副管理者と職員が一丸となって取り組んでまいります。今後とも、議員各位並びに市民皆様のより一層のご理

解とご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。